



首相官邸から地方自治体、Jリーグにいたるまで、次々に生まれるホームページ。その制作をビジネスしようという企業が急増している。名刺・チラシから雑誌・テレビコマーシャルと出版制作にもいろいろあるように、インターネットを媒体としたデジタルパブリッシングもさまざまな企業が各社の考えで参入している。パイオニアとなる15社の取り組みを取材、現状をレポートする。

取材・文 / 堀 悦夫

ホームページ制作 代行会社レポート

話題性の高い分野にビジネスチャンスを求めるのは世の常らしく、ホームページ制作代行ビジネスも例外ではなかった。大企業はもとよりベンチャー企業から個人企業までが進出し、その数は数十社にのぼる。

何やらひと頃のCD-ROM制作代行ビジネスの様相にも似ている。実際、進出企業をずらっと眺めると、コンピュータ会社や印刷会社などCD-ROM制作も行う企業が多い。ただ、CD-ROMと大きく異なるのはパッケージングが不要となる点だ。サーバーへの登録が最終工程となるわけで、CD-ROM制作と比べても進出はずっとたやすい。早い話が、インターネット環境とスキャナーなど若干の画像機器、そして制作ツールがあれば、誰でもホームページを制作できてしまうのだ。

スタンスは参入企業によって違う

となると、そもそも制作代行ビジネスは成り立つのか、という疑問がわいてくる。まず、その点を進出各社に訪ねてみた。

結論からいうと、成り立つ部分と成り立たない部分に2極分化するというのが大方の予想である。成り立つ部分とはクオリティを追求するハイエンドな部分であり、成り立たないのはその逆ということになる。当然、ビジネスとしてはハイエンドな部分を目指すことになるはずだが、ここで各社のインター

ネットに対するスタンスの違いが表れてくる。

セントラルインターネットやスプレッドグループホールディングスは、「ここ1~2年のビジネス」と割り切る。インターネットの良さは誰もが気軽に情報発信できるところとして、ハイエンドな部分は目指さず、制作ツールの普及によりビジネスチャンスがなくなるのは仕方がないとの姿勢である。

一方、ハイエンドの目指し方にも差は表れている。紙メディアで言えば印刷なのか出版・編集なのかというような差である。つまり、個々のクライアントニーズを満足させる高品質のサービスを提供していくのか、オリジナルな情報サービスを用意することでクライアントを獲得していくのかという違いだ。

前者のグループに入るのが、もともと印刷会社である大日本印刷や凸版印刷のほか、東洋エンジニアリングや三井情報開発など大企業向けサービスを実施する企業、あるいはNECや富士通などコンピューターメーカー。これに対し、後者となるのが、アクセスやデジタルハリウッドなど編集プロダクションと広告代理店各社である。

また、他社と一線を画しているのがIJメディアコミュニケーションズ。インターネットプロバイダーであるIJの関連企業であるだけに、インターネットの利用の仕方を提供するサービスのひとつとしてホームページ制

作も捉えており、デザイン制作そのものは専門業者を紹介するという姿勢も見せる。

最低料金が数千円~数十万円

こうしたスタンスの違いは、制作料金の設定にも見られ、最低料金が数千円から数十万円という差となって表れている。数千円というのは「とりあえずホームページを立ち上げたい」というニーズに応えるもので、数十万円は「世界に出しても恥ずかしくないものを」との考えによるものだ。

いずれにせよ、相場が確立されているわけではなく、クライアント側の認識度もまちまちなため、現実にはクライアントとの力関係で決まるといったことも多いらしい。

制作上の問題点としては、利用者の通信環境やブラウザを考慮したコンテンツ設計やデザインが必要になり、その制約から結果的にどこも同じようなデザインになってしまうきらいもあるという。また、HotJAVAやVRMLなどの新しい表現手法を採用したくても、現状では利用できる人が限られるので採用を見送ることになる。

ともかく、ビジネスの将来性や料金相場の未確立、制作手法の制約といった問題はあがあるが、ホームページ制作はますます増え続けるものと予想される。制作代行業も、今しばらく活況を呈することは間違いなさそうだ。

プロバイダー業者のコンテンツ部門

インターネットの利用技術はすべて提供したい

IIJメディアコミュニケーションズ

IIJの関連企業で、インターネットを接続した後どう利用していくかという部分をコンサルティングしたり、新しい技術を提供したりすることを目的にした会社。

ホームページ作成はあくまでもサービスの一つとして実施している。「今はWWWのサービスが中心になっているが、今後はインターネットの放送局のような利用の仕方も考えられるので、たぶん半年後、1年後に当社が提供するサービスは変わっている」と林聡子技術部長は話す。

このため、ホームページ制作のためのスタッフを内部に抱えるということはなく、11名いるスタッフは全員が技術者で、ヒヤリングや企画提案以外の作業は外部の専門家にまかせるという体制をとっている。直接インターネットに係わる部分以外は専門家にまかせたほうが質も高められ、コストダウンも図れるからだ。

その分、社内では表現方法の分析やホームページを見せるための企画提案などに力を注げることにもなる。また、VRMLやHot-JAVAなど新しい表現方法などへの対応にも取り組み、「いま、世の中にあるインターネ

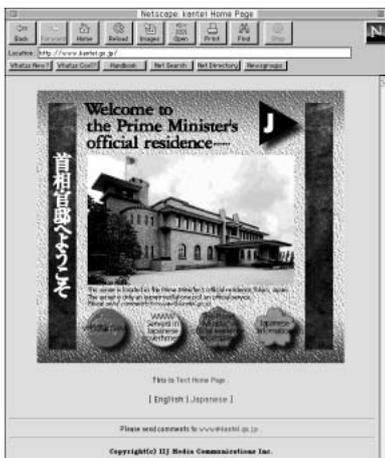


林聡子技術部長

ットの技術はすべてここで見られる」ようにし、いち早くサービスとして提供できる体制を整えている。

制作料金の目安はテキストに画像2点の構成で1ページ1～3万円。事例としては官邸のホームページがある。

問題点としては、一部にコンテンツ制作



IIJメディアコミュニケーションズの実例：首相官邸

をハードウェアの付属品とみる傾向のあることを指摘する。こうした捉え方では質の向上は望めないというのだ。また、ホームページを企画提案する際、HTMLなどの仕様の変更が早いため、どの時点で採用するかの見極めが難しいこともあげている。

問い合わせ 03-5276-6229

URL <http://www.ijnet.or.jp/IIJ-MC/>

企画から企業教育まで提供する NEC

C&C-VANインターネットサービスmeshなどプロバイダー事業の一環として、WWWサーバーのコンテンツ作成サービスを実施している。ホームページの企画から画面設計、制作のほか、クライアント自身で更新できるようにオーサリングツールの提供や教育までトータルに行うのが特徴。また、WWWを利用したアプリケーションも開発する。

企業のほか、経済団体、工業会、官庁、自治体などのホームページも作成した実績を持つ。本社部門で担当したのはJETRO（日本貿易振興会）など約10件だが、地方の場合は直接システムエンジニアが制作を相談されるケースもあるので実数は不明とのこと。

画面制作は利用者ターゲットをどこにするかで変わってくる。たとえば、企業がターゲットなら専用線のスピードを想定すればいいが、個人となるとダイヤルアップのスピー

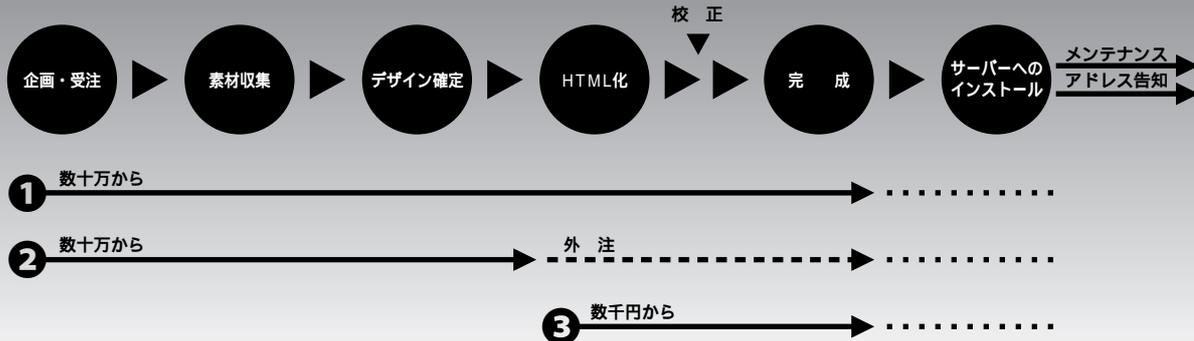


図 ホームページ制作ビジネスの流れ

ドに合わせなければならないなどの問題があるからだ。

このため、専門のデザイナーとともにイメージ作りから始め、画面設計のための調査・分析を行うのは約10日間。設計を終え、実際に画面制作を行うのが約7日間というスケジュールだ。制作料金は内容に応じて大きく異なり、数万円のレベルから100万円のオーダーまである。

スタッフは専門が10名ほどだが、デザインは関連会社のNECデザインやNECクリエイティブなどに依頼。制作業務自体はNEC情報システムが担当している。

マルチメディアのコンテンツビジネスそのものは増えるとしており、その中にインターネットがあり、CD-ROMなどがあるという考え方で、ニーズにあったものを提案していくという姿勢である。収益見込みは？と尋ねると、「ファイアウォールの構築なども含んだインターネットソリューションサービス全体の中の1つと考えているので、とくにホームページだけの収益目標を決めているわけではない」という答えが返ってきた。

問い合わせ TEL044-812-8411

URL <http://www.nec.co.jp/>

自治体から銀行まで幅広く受注 富士通

インターネット接続サービス「InfoWeb」の一環としてホームページ制作ビジネスも実施。InfoWebは7月時点で約540の接続数となったが、このうち自前のサーバーを持つ約70件が基本的に制作ビジネスの対象だ。自治体や銀行、メーカーなどからの受注が多く、具体例としては横浜市役所やコスモ石油などがある。

制作料金の目安は、企画設計から制作までの場合、30ページで約144万円。既存の情報を利用して、グラフィックとテキストをHTML化する場合は1ページ約1万8,000円となる。

スタッフは直接担当部門には3名だが、



富士通の実例：横浜市

デザインなどは協力会社に外注する。制作期間は加工とインプットだけなら2～3週間という。

「今はホームページを立ち上げたいという需要のほうが多くて、ホームページを制作する側がそれに対応しきれていない状況だが、1年くらいすれば需給のバランスがとれてくる」と、今後を見通すのは富士通ラーニングメディアのメディアサービス部ドキュメントサービス課の川端自人課長。今後は自分で制作できるようになるので、特殊なニーズに対応できる場所が残らないだろうというのだ。特殊なニーズとは、膨大なページのものや特別なデザインのもの、あるいはサーバー側にプログラムを持ちインタラクティブな情報公開ができるものなど。これらに対応するには、デザインやコーディネート面での強み、技術力が必要になるわけである。

問い合わせ TEL03-3730-3431

URL <http://www.web.ad.jp/>

内部スタッフで制作、MMJPに掲載 アトソン

ASAHIネットでおなじみのアトソンはインターネット向け情報発信媒体としてMMJP (Multi Media Japan) を運営しており、ここに登録されているANA INTERNET SHOP (全日空商事) GONIN (松竹) PARCO-CITY (パルコ)などのホームページを作成している。MMJP以外にも数件制作し、トータルでは32件となる。ほとんどが民間企業だが、演劇や映画などの文化情報のホームペ



アトソンの実例：PARCO-CITY

ージ制作が多いのがひとつの特徴だ。

制作料金は原則的には個別見積りだが、見積り例としてはページ数が50ページで、各ページに写真1点が入るといった条件の場合、平均して70万～80万円。比較的安くできるのは、HTML化の作業など自動化している部分が多いため。その分、表紙ページやコンテンツなどのデザイン部分に力を割いている。また、情報更新は別途月間契約となるが、制作料金の半分以下で、パルコのページなどは毎週変えているという。

すべて内部で処理しており、デザインと制作技術の専門スタッフは合わせて7人。外注しないのは、通信販売やビジネスがらみでクライアントとの間で情報の守秘義務を要請されるケースが多いため。制作期間はデータ受け取り後、平均で2週間、マキシマムで3週間。

ビジネスの将来性については、「基本的コンテンツとか、冒頭ページのデザイン、全体の企画とか、いかに見て面白い番組作りをしていくかという部分は専門のスタッフが必要だから、今後とも伸びる。」(早川 玄氏)とみる。

しかし、現状では通信環境とブラウザのレベルが画面表現のネックとなり、原則的に画像データは100Kバイト以下で、1画面に3つ以内とするなど制作上の制約も多い。また、ブラウザも現状ではネットスケープしか付かないので、画面構成デザインが単一的になりがちという問題点を指摘する。

問い合わせ TEL03-3666-2811

URL <http://www.mmjp.or.jp/>



プロダクション

デジタル出版の専門業者を目指す アクセス

ホームページを「新しい形の出版」として捉え、その制作に積極的に取り組む編集プロダクション。現在、アップルコンピュータが実験的に提供しているWebの編集制作や、IBMのユーザー機関誌「PS FEEL」のホームページ制作などを手がけている。社長の川添歩氏は、昨年までコンピュータ関連の出版社に勤めていたが、今年、退社した。既存の出版では流通によって出版そのものが決まってしまうこともあり、必ずしも読者が求めているものが出版されないという弊害がある。また、出版点数が膨大なため、新聞などで紹介されたものしか書店に陳ばないといった問題も指摘し、WWWでの出版ならこうした問題を改善できると考えている。

こうした視点でホームページ制作に取り組んでおり、プランニングやフォーマット作りまでを担当、画像作成やHTML化の作業は外部に発注するという体制だ。スタッフはエディター、イラストレーター、システムエンジニアの総勢6名。

出版という捉え方は制作料金の設定にも反映しており、標準価格は企画書作成や調査費用などの初期費用が50万円、具体的にページ構成を設計する基本設計費用が50万円、取材、写真撮影など素材作成費が1ペ



アクセスの実例：アップルジャパン



川添氏。スタッフの連絡はファーストクラスのBBSを使うこともあるという。

ージ5万円から。見積額としては、約50ページでデザインパターンが5種類程度の場合、合計500万円となり、PR誌を作成する場合と同じような構成となっている。「たとえばどんなページをリンクさせるか、というような、インターネット全体の中での情報デザインの形を提供することが理想」だそうだ。

問い合わせ 03-5465-7936

URL <http://www.axes.co.jp/>

インターネットを手軽なものにしたい マインドウェア

プランナー、コンサルタント、デザイナー、プログラマーなど、状況に応じて専門家チームを結成しホームページの制作を行うプロダクション。コーディネーター役の多田薫弘氏は、「誰でも手軽に情報発信できることがインターネットの良さ」と強調し、低コストでの情報発信サービスに力を注ぐ。

このためホームページ制作は、比較的小規模な企業からの相談が多い。制作料金は



マインドウェアマガジン



出版社でPR誌を作っていたキャリアをもつ藤井政登 出版局長

個別見積りだが、1か月当たり1人70万円が目安。つまり、十数点の画像を1週間で制作した場合が15万円、30ページを約3週間で制作すると60万円という具合だ。

小企業のほか、三井情報開発を経由して通産省ホームページの画像作成を手がけたこともある。また、広告代理店経由の引き合いもあるというが、「われわれの主張とは違う」とホームページに対する考え方にギャップのあることも指摘する。

つまり、「企業PRのためにお金をかけて、きれいな画面作りだけやっていると、80年代のニューメディアと同じ」になってしまう。それよりも、手軽に情報発信することのほうが大事だというのだ。

こうしたことから、ホームページ制作とは別に「WWW告知代行サービス」というメニューも用意している。サーバー上の「マインドウェアマガジン」により1ページ月5,000円で、セミナーや調査資料、流通資料、コンサルタント会社などの情報にテーマを絞って集め、掲載していく。

問い合わせ TEL048-257-2264

URL <http://www.ijnet.or.jp/mindware/>

高品質なPR誌を作ることと同じ デジタル・ハリウッド

マルチメディアの人材育成を目的に昨年9月に設立された会社だが、CD-ROMなどの制作・出版ビジネスを行う出版局を今年4月から設置、その一環としてホームページ作成ビジネスも始めた。

出版局の藤井政登局長は、「PR誌を立ち



この夏一般向けのインターネット講座も開いたデジタルハリウッドの授業風景

上げるようなものを提案したい」と話す。単に企業情報を発信するだけの会社案内的なホームページではなく、読むに値する内容となるような企画提案をし、クオリティの高いホームページ作成ビジネスを目指しているのである。

デザインを重視するという姿勢から、基本料金は表紙ページだけで50万円からという設定。単純に画像とテキストをHTML化するだけならずっと安くできるが、「世界に出せる会社案内の表紙、あるいはポスターを作成していると考えてほしい」と高品質を強調する。

スタッフのデザイナーは全員美術大学出身の専門家。スタッフは現在5人だが、来年には10人に増やす予定だ。また、マルチメディアのスクールを運営しているだけに、画像やCGを作成する人材も豊富なことが強みである。

まだ実績は数件ということだが、年内には専用線接続で自社サーバーを立ち上げるため、サーバースペースを利用したホームページの提供も可能となる。

問い合わせ TEL03-5295-8886

電子メール pochid@dhw.co.jp

ベンチャー企業

低価格がウリの学生集団 スプレッドグループホールディングス

ゲームサークルを母体に設立された学生ベンチャー企業で、ゲームのリサーチ事業や、パソコンの家庭教師事業などに加え4月からホームページ制作代行も始めた。

サービスの特徴は1ページ1万円という低価格で、しかも早くホームページを制作できること。学生スタッフが自分の空き時間を利用して自宅のパソコンで画像などを作成し、それをインターネットで統合してホームページを完成させる。これまでの主な制作実績としては、「アジアコレクション」。これは、千葉県などが主催するアジア各国の代表的な若手ファッションデザイナーによるファッションショーの情報。

低価格でサービスするのは「小さなところで情報発信できることを大切にしたい」（國分裕之社長）という思いからだ。主に中小企業対象の事業を進める意向だが、30社に限定して30ページまで無料で制作するキャンペーンも開始。これは「学生で大丈夫か」というイメージを払拭するため、すでに数十社の申し込みがあったという。

しかし、「ビジネスとしては1～2年」と予想する。誰でも使えるツールができてしまえば、今の料金でさえ事業を続けるのは難しい。一方で、学生ができる範囲を越えてしまうというジレンマもあるようだ。

問い合わせ TEL0474-26-2373



國分裕之社長（左）と松村効朗さん（ホームページ制作責任者）



レンタルサーバー：銭湯のホームページ

レンタルサーバーサービスの一つ セントラルインターネット

「今だけのビジネスで、あと1～2年あればいい」というのは、同ネットを運営する岡本商事の瀬川敏己氏。

このため、現在のサービスも、主にWWWサーバーレンタルサービスの一環であり、これまでに約20件ある実績のほとんどは同社のサーバー「銭湯」に構築したもので、横浜周辺の商店、中小企業が多い。

費用をかせずに誰でも簡単に情報発信できることに主眼を置いているため、制作料金もHTML化が1ページ5,000円から、デザイン画作成が1画像10,000円からと低価格、スタッフは学生アルバイトが6人ほど。

現状での問題点は、ただ漠然とホームページを出したいという要望が多く、見る側を意識したものになっていないこと。このため、打ち合せ段階で企画提案しており、たとえば、単なる広告掲載的な要望だった和菓子屋の場合は、菓子の作り方の説明とその英語版を用意するような形に提案した。

問い合わせ 045-853-0975

URL <http://www.cen.co.jp/>



インターネットのレンタルスペースサービス「寺子屋ウェブ」にサーバーがある。瀬川敏己さん



広告代理店

アクセスを増やす マルチプル情報マガジン 旭通信社

個別のホームページ立ち上げに対応するのではなく、「マルチプル情報マガジン」とのコンセプトによるオリジナルサイト「Inter Ginza G7」を8月31日から開設し、この中に参画する企業のホームページ制作を手がけている。

Inter Ginza G7は、企業情報をそのまま掲載するのではなく、ユーザーが興味を示す切口を探したり、編集タイアップスタイルで新たな情報を付加するというもの。ビジネス、カルチャー、ショッピング、海外関連情報、ライフスタイル、エンターテインメント、銀座情報という7コーナーを設け、これらの情報をベースに企業広告と連携していくしくみだ。このうち銀座コーナーでは日比野克彦氏をバーチャルカフェのマスターとして起用し、いろいろな人とのセッションも企画。各コーナーにもキャスターを起用し、カタログ的ではない表現スタイルも採用。このほか、リサーチ、サンプリング、モニタリングなどレスポンスシステムも取入れ、ユーザーの参画性も高めている。「1度見て2度とアクセスしないようなページでは広告媒体として成立しない。多くの人を呼ぶコンテンツ作



Inter Ginza G7。記事を見せつつパブリシティ広告を表示する。

りが先決」とマルチメディア推進室の近藤幸一氏。

当初10社の参加を予定しており、年内には1コーナー10社で計70社の参加を見込んでいる。また、制作料金は個別相談となるが、1ページ5万円前後が目安。「今後は、リンクやメディアミックスなどにより、できるだけメジャーにしていく」と、全社的取り組みで推進していく。

問い合わせ 03-3547-2140

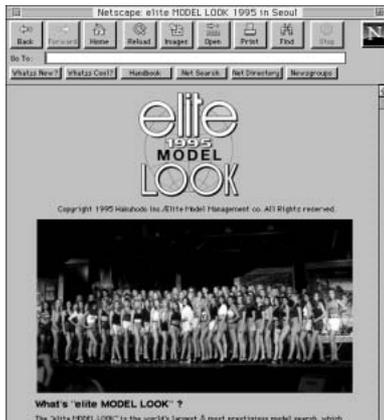
URL <http://www.inter.G7.or.jp> (予定)

インターネット番組に広告を載せる 博報堂

ホームページというよりもWWWで番組を制作し、広告媒体として活用していこうとの姿勢。その第一弾として「elite MODEL LOOK '95」の番組を9月12日から10月9日までインターネット上で提供する。

「elite MODEL LOOK '95」は、世界最大のモデルエンジェンシー、エリート社が開催する新人モデル発掘イベントで、今年は8月27日に韓国ソウルで開催。このインターネット上での発信権を4週間分買い取り、オフィシャル・マガジンが発売される前に公開しようというもの。

番組ページの中にスポンサーのアイコンを設け、そこをクリックすることで各スポンサーのページへ移動できるようにする。掲載ス



elite MODEL LOOK '95のページ。この画面の下にコンテンツがありすべて広告と連動している。



「将来はアドレスを告知し、アクセスを集めるところまで提供したい」と電通の及川直彦氏

ベースは3社分。アクセスを増やすため、アンケートや景品と連動させたり、各スポンサー独自のホームページとのリンクも予定する。

この番組を企画したのは、インターネット上でエンタテインメント性に富んだものがまだ少なく、話題性が高いと見たため。単にインターネット上の広告というだけでなく、新商品のキャンペーンや展示会のデモなどにもこの番組を活用することで、さらに話題性の高いものになると強調する。広告料金は200万円と300万円の2種類で、雑誌の広告掲載と同じくらい。制作手順は、HTML化などインターネット特有の部分を除いて通常の広告制作と同様。第二マーケティング局が企画など基本部分を担当するが、制作作業は社外となる。

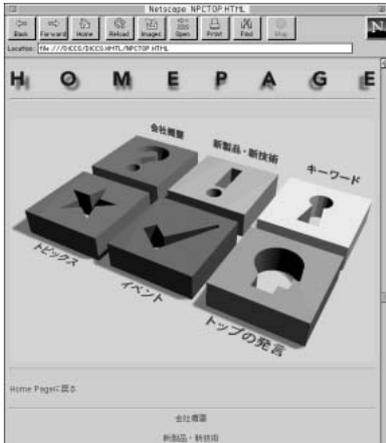
問い合わせ 03-5259-4305

URL <http://www.ijnet.or.jp/elite/>

企業情報ページをパッケージ化 電通

企業向けホームページ制作をパッケージ化したのが電通コーポレート・コミュニケーション局が始めた「電通インターネット企業情報発信システム(DICSS)」。クライアントのニーズに応じてオリジナルのページを制作するとともに、ホームページのデザインをフォーマット化して低コスト、短期間で制作できるようにし、さらにWWWサーバーベースもレンタルして、インフラ整備不要ですぐに情報発信できるようにしたものだ。

デザインをフォーマット化したのは「一般的なひな型を用意することによりインターネット上での企業情報発信の敷居を低くする」(同局の及川直彦主事)ため、

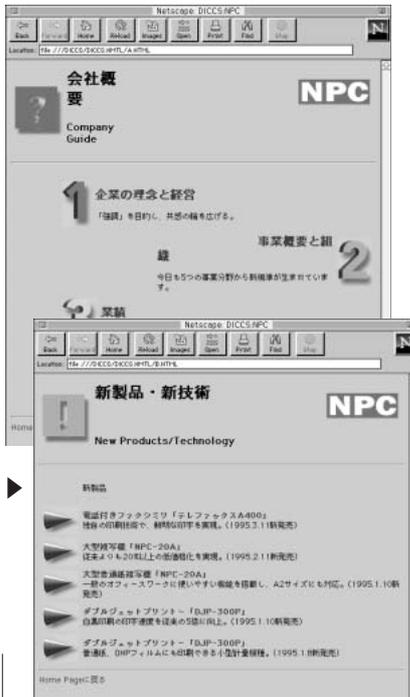


DICCSで用意している基本フォーマットの構成は、会社概要：4項目、キーワード：4項目、新製品・新技術・新サービスのヘッドラインと詳細、アクティビティ、オリジナル企画となる。

クライアント側は指定フォーマットに従った日英のテキストと写真を用意するだけで済む。

7月からすでに2社のホームページを制作、進行中のものが数件あるという。制作は電通ブロックスなどで行い、制作期間は入稿から完成までが約2週間。オプションによりHotJAVAなどの表現手法にも対応できる。

制作料金は日英2か国語それぞれ18ペー

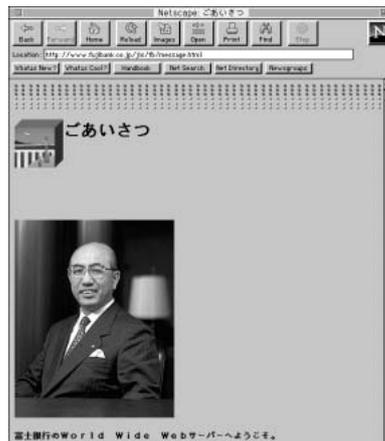


ジ、合計36画面の基本パターンで200万円。メンテナンス費用は月30万円（うち10万円がサーバーのレンタル料）で、1画面程度のデータ更新とアクセスログの収集、レスポンス電子メールの転送などを行う。

問い合わせ TEL03-5551-5580

電子メール d11163@dentsu.co.jp

の中でホームページの提案も行う。当初は単にきれいな画面を要求されることが多かったというが、現在は企画段階からクライアントと一緒にシナリオ作りをするケースが増えている。制作料金は数十ページから数百



大日本印刷の実例：富士銀行とJリーグのページ。Jリーグの試合結果も速報で流す。

ページに及ぶものもあり、個々のケースによって異なるため一概には言えないとのことである。単純なHTML化はツールの整備により個人でできるようになるため、企画力や編集力、ディスプレイ上の表現方法などが今後差別化を図るうえでのポイントとして見ている。また、既存の印刷データ資産の2次利用も重要としている。「企業が必要なときに必要な情報を取り出せるデジタル倉庫」とホームページの組み合わせも提案する。

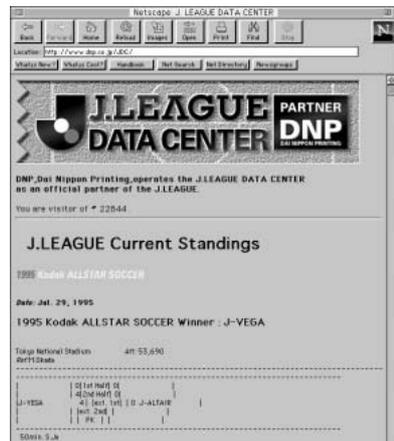
問い合わせ TEL03-5360-8620

URL <http://www.dnp.co.jp/>

印刷物とのメディアミックスも提供したい 凸版印刷

昨年10月からインターネットを利用した実験「サイバー・パブリッシング・ジャパン」を実施しており、実験参加企業のうち住友クレジットカードサービスなどのホームページを作成している。また、これとは別に、一般のホームページ制作ビジネスも行っている。「印刷会社なので、版下を作るようにWWWのコンテンツも作っている」というわけだ。

実験参加企業以外では日本化学会のWWWサーバー構築や、東京レポートセンターの画面作成などを手がけ、これまでに約20件の実績があり、ほとんどは民間企業。





凸版印刷の実例：サイバー・パブリッシング・ジャパンにある住友クレジットサービス

マルチメディア部門であるトッパンメディアセンターが担当セクションだが、このうちインターネットに係わるスタッフは10人前後。しかし、ホームページ作成には印刷部門の機械が利用でき、DTPやカタログ制作などのセクションも係わっているため、トータルでは数十人規模となる。

ビジネスの先行きについては、「今は誰でも作れる状況ではないので、この1~2年はかなりある」と予想している。しかし長期的には現在の表現では料金が下がるため、印刷会社のビジネスとしては採算が合わなくなると見ており、「将来は企画とかネットワークのシステムインテグレーションも含めてトータルのビジネスをやっていきたい」という。

この方向性が、サイバーパブリッシングジャパンの実験につながっており、「インターネットのデータを印刷物としても提供するような、メディアミックス的なお手伝いもしたい」と印刷会社ならではの取り組み方も示す。

問い合わせ TEL03-3815-2850

URL <http://www.toppan.co.jp/>

大企業向けシステム構築業者

情報コンサルティング事業の一つ 三井情報開発

情報システムコンサルティングの一部としてホームページ制作も行っているため、制作件数は10件弱と多くはない。しかし、1件当りの制作規模の大きなところが中心で、通産省、三井不動産などが実績。コンサルティング事業部のインターネット事業推進チームに約10人のスタッフが在るが、それ以外に外部のデザイナーやネットワークを通じた学生アルバイトの活用より制作している。制作の流れは共同で論議を重ね、プロトタイプ画面を見せて確認を受けながら進める。完成後はクライアント側で運営できるようマニュアル化も行う。料金は個別見積り。

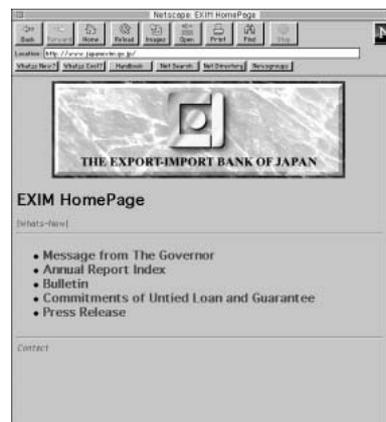
ビジネスの見通しとしては作成だけでは限界があるとして、「どれだけ付加価値の高いものが作れるか」をポイントにあげる。また、アクセスを増やすためのアドバイスやネットワーク上のロケーションなどの支援サービスも必要という。さらに「作っただけでは埋もれていないに等しいので、見つけられやすく、飽きないような中身で差別化していきたい」と方向性も示す。ただ、情報を出す側が利用者の視点に立ったコンセプトを持っていることが多いと問題点を指摘している。

問い合わせ TEL03-3237-6068

URL <http://www.mki.co.jp/>



三井情報開発の実例：通産省



実例：日本輸出入銀行

LAN事業の一部として受注 東洋エンジニアリング

工場のLAN設備などを手掛ける産業システム事業本部で、LAN事業の延長としてインターネット関連の事業も担当しており、その一部としてホームページ制作代行も行う。これまでに千葉市、日本輸出入銀行など10数件の制作実績を持つ。

企画段階からサーバーの立ち上げまでを含めたトータルなビジネスとして受注しており、画面制作だけの仕事は原則的に引き受けていない。発信する情報内容の選定、画面構成、データのHTML化、リンク、インストール、テストといった一連の作業のほか、完成後のアナウンスや更新、アクセスログの解析などのサービス。さらに、データベースとの連動などアプリケーション開発も行う。料金は個別見積りとなるが、目安としては1ページ当たり6~10万円。

ビジネスの将来性については、「誰でもホームページを作れるようになって、上場企業が発信する場合いかにげんなものは作れない、しかも更新するたびに規模が大きくなるだろうからその部分でビジネスになる」（同社産業システム研究所の亀井さん）と大企業向け市場の成長を期待する。ただし、現状では「収益見込みは難しい」とも語る。興味は高いものの、まだ新しいものであるだけに予算化されておらず、「正当な価格がなかなかもらえない」状況があるという。

問い合わせ 0474-54-1991



[インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ] ご利用上の注意

このPDFファイルは、株式会社インプレスR&D(株式会社インプレスから分割)が1994年～2006年まで発行した月刊誌『インターネットマガジン』の誌面をPDF化し、「インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ」として以下のウェブサイト「All-in-One INTERNET magazine 2.0」で公開しているものです。

<http://i.impressRD.jp/bn>

このファイルをご利用いただくにあたり、下記の注意事項を必ずお読みください。

- 記載されている内容(技術解説、URL、団体・企業名、商品名、価格、プレゼント募集、アンケートなど)は発行当時のものです。
- 収録されている内容は著作権法上の保護を受けています。著作権はそれぞれの記事の著作者(執筆者、写真の撮影者、イラストの作成者、編集部など)が保持しています。
- 著作者から許諾が得られなかった著作物は収録されていない場合があります。
- このファイルやその内容を改変したり、商用を目的として再利用することはできません。あくまで個人や企業の非商用利用での閲覧、複製、送信に限られます。
- 収録されている内容を何らかの媒体に引用としてご利用する際は、出典として媒体名および月号、該当ページ番号、発行元(株式会社インプレス R&D)、コピーライトなどの情報をご明記ください。
- オリジナルの雑誌の発行時点では、株式会社インプレス R&D(当時は株式会社インプレス)と著作権者は内容が正確なものであるように最大限に努めましたが、すべての情報が完全に正確であることは保証できません。このファイルの内容に起因する直接のおよび間接的な損害に対して、一切の責任を負いません。お客様個人の責任においてご利用ください。

このファイルに関するお問い合わせ先

株式会社インプレスR&D

All-in-One INTERNET magazine 編集部

im-info@impress.co.jp